

SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度選定

静岡県 御殿場市

2023年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

御殿場市SDGs未来都市計画

～誰もが輝ける 富士の麓の環境を守り育てるまち 御殿場から

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

御殿場市SDGs未来都市計画～誰もが輝ける 富士の麓の環境を守り育てるまち 御殿場～

(2) 2030年のあるべき姿

富士山と箱根の間に広がる市域の強靱性を保ち、自然環境の継続的な保全と活用を進めることで、本市の優れた環境・景観と産業・経済振興が好循環するとともに、関係人口、移住定住人口の増加も図られ、すべての人にとって住みやすいまちづくりが持続的に行われている。こうして、市内外のステークホルダーとのパートナーシップも相まって、誰もが輝ける豊かで魅力ある都市が実現している。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	御殿場SDGsクラブへの加盟数（企業・団体・学校等）【17.17】	2022年6月 140 団体	2023年3月 153 団体	2030年 230 団体	14%
2	小売・卸売業年間商品販売額【8.1,8.2,8.3,8.4,8.5,9.2,9.4,9.5】	2016年 1,842 億円	2021年 1,805 億円	2025年 1,850 億円	-462%
3	観光交流客数（観光レクリエーション客数、宿泊数）【8.1,8.9】	2020年3月 10,290,095 人	2022年3月 11,990,574 人	2030年 15,000,000 人	36%
4	御殿場SDGsクラブへの加盟数（企業・団体・学校等）【17.17】	2022年6月 140 団体	2023年3月 153 団体	2030年 230 団体	14%
5	市内の医師の総数【3.1,3.2,3.4】	2019年 117 人	2020年12月 133 人	2025年 150 人	48%
6	学校の自己評価・学校関係者評価による教育課程の改善状況【4.5,4.7】	2021年 97 %	2022年 98 %	2025年 98 %	100%
7	各種防災訓練における参加者数【4.5,4.7,16.3,16.6】	2022年 24,728 人	2022年12月 22,684 人	2025年 35,000 人	-19%
8	地域ブランド市区町村ランキング（魅力度）【ブランド総合研究所調べ】【11.2,11.3,11.a,11.b】	2021年 94 位	2022年 92 位	2025年 85 位	22%
9	御殿場SDGsクラブへの加盟数（企業・団体・学校等）【17.17】	2022年6月 140 団体	2023年3月 153 団体	2030年 230 団体	14%
10	市全体の二酸化炭素排出量【7.2,7.3,7.a,12.2,12.5,12.8,13.2,13.3】	2019年3月 694.5 千t-CO ₂	2021年 701.0 千t-CO ₂	2030年 401.8 千t-CO ₂	-12%
11	御殿場市富士山眺望遺産の認定件数【11.4,11.6,11.a】	2021年 5 件	2022年 5 件	2025年 7 件	0%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

当市の地方創生SDGs推進にあたり、指標No.1・4・9【御殿場SDGsクラブへの加盟数】は2022年（現状値）153団体から更に増加し、2023年8月現在では175団体となっており順調に進捗。また、指標No.3【観光交流客数】は、コロナ禍による減少も限られたものとなり、少しずつ回復が見られ、目標達成に向け進捗し産業・スポーツ・文化の他分野の取組で関係人口増に繋がった。

指標No.2【小売・卸売業年間商品販売額】については、感染症の影響により市内経済が大きく低迷。対応策として、地域内消費喚起のためデジタル地域通貨「富士山コイン」を新たに導入・活用し、経済活性化施策に取組み、且そのスキームを活用し三側面をつなぐ相乗的に効果を促すための御殿場型デジタルポイントを新設。地域課題解決に向けた社会活動と地域経済が持続的に循環する仕組みづくりに取り組んだ。

指標No.7【各種防災訓練における参加者数】も、コロナ禍で密集回避の目的で市民参集方法等を変更したため減少傾向が見られる。対応策として、自治会内で分散して防災訓練を実施する手法の検討や、防災学習（中学生ジュニア防災士）と連携し、子ども達が参加しやすい訓練内容に見直すなど、防災訓練への参加促進と防災減災意識向上を図る。

指標No.10【市全体の二酸化炭素排出量】については、「御殿場市のゼロカーボンシティに向けたロードマップ」を令和5年1月に策定し、2050年までの長期的な目標値（脱炭素シナリオとロードマップ）を定めた。今後、地域と連携しJ-クレジットの活用による脱炭素推進に取り組むなど、官民共通認識のもとで協働して進める。

情報発信にあたっては、御殿場SDGsクラブ会員や市民のSDGs実践活動の「見える化」と「連携促進」のためのSDGs交流サイトを制作（令和5年度公表見込み）。また、ステークホルダーとの連携では、市内小中学校・高校への出前講座やフィールドワーク等を実践数が増加。小中学生のSDGs学習が広がり、高校生は企業と共に実践的な地域課題解決の取組も進んでいる。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
1	① 地域産業の持続的発展 ●魅力度・ブランド力の地域への経済的波及 ●SDGs金融と御殿場型デジタルポイント等の導入	小売・卸売業年間商品販売額	2016年 1,842 億円	2021年 1,805 億円			2025年 1,850 億円	-462%
2	① 地域産業の持続的発展 ●魅力度・ブランド力の地域への経済的波及	製造品出荷額	2018年 4,845 億円	2020年 4,401 億円			2025年 4,900 億円	-807%
3	① 地域産業の持続的発展 ●環境先端企業・機関の集積と連携 ●若者がUターンする雇用機会の創出	事業所数	2016年 3,684	2021年 3,442			2025年 3,700	-1512%
4	① 地域産業の持続的発展 ●創出と地域循環による農業活性化	一人当たりの労働生産性	2016年 509 万円	データなし			2025年 520 万円	-
5	② デジタル・絆・文化が調和する持続可能な社会形成 ●誰もが安心できる生活環境と地域の絆	合計特殊出生率	2013～2017 (2022発表) 1.75	データなし			2025年 1.80	-
6	② デジタル・絆・文化が調和する持続可能な社会形成 ●高度デジタル社会への的確な対応	マイナンバーカード普及率	2022年 47.2 %	2023年 74.1 %			2025年 75 %	96%
7	② デジタル・絆・文化が調和する持続可能な社会形成 ●別荘文化・茅文化・食文化の発信 ●スポーツ交流によるまちづくり、健康づくり	地域ブランド市区町村ランキング（魅力度）	2021年 94 位	2022年 92 位			2025年 85 位	22%
8	② デジタル・絆・文化が調和する持続可能な社会形成 ●地域防災力の強化	各種防災訓練における参加者数	2022年 24,728 人	2022年12月 22,684 人			2025年 35,000 人	-19%
9	③ 環境先進都市への挑戦 ●ゼロカーボン社会の実現 ●「木育」による森林資源の活用と木林業振興	市全体の二酸化炭素排出量	2019年3月 694.5 千t-CO ₂	2021年 701.0 千t-CO ₂			2025年 534.9 千t-CO ₂	-12%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
10	③ 環境先進都市への挑戦 ●環境保全と環境意識の向上	ごみ・資源物発生量	2021年3月 27,438 t	2023年3月 26,778 t			2025年 28,000 t	117%
11	③ 環境先進都市への挑戦 ●資源循環型社会の構築	家庭系ごみ・資源物の資源化率	2021年3月 11.15 %	2023年3月 18.4 %			2025年 13.40 %	322%
12	③ 環境先進都市への挑戦 ●魅力ある景観の形成	御殿場市富士山眺望遺産の認定件数	2021年 5 件	2022年 5 件			2025年 7 件	0%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

- ・御殿場SDGsクラブ 産学官金等の多様なステークホルダーとの連携を深めてSDGsを推進する「御殿場SDGsクラブ」を令和2年3月に設立し、宣言制度として運用。令和4年度は、クラブ会員間の交流・啓発イベント等開催。
- ・(仮称)ごてんばSDGs推進パートナー制度 御殿場SDGsクラブ内の会員を対象にSDGs達成に向けた先導的取組を行う企業・団体を推進パートナーとして登録する製度の構築（令和5年度予定）
- ・御殿場市SDGs交流サイト 経済・社会・環境三側面のそれぞれの取組をデジタルを活用してSDGsを共通言語に横断的な実践活動の見える化を図り、市民や企業団体が相互にそれぞれのSDGs活動への参加・支援をする交流機会を創出するための交流サイトを構築（R5年度末公開予定）

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

①地域産業の持続的発展

コロナ禍による地域経済への影響は大きく、経済面の指標No.1【小売・卸売業年間商品販売額】・No.2【製造品出荷額】・No.3【事業所数】の進捗は全体的に思わしくない。要因としてコロナ前1,400万人超の観光交流客数の大幅減少が大きい。対応策で地域内消費喚起のためデジタル地域通貨を活用した経済活性化施策に取組み、且そのスキームを活用し三側面をつなぐ相乗的効果を促すための御殿場型デジタルポイントを導入し、地域課題解決に向けた社会活動と地域経済が持続的に循環する仕組みづくりに取り組んだ。

②デジタル・絆・文化が調和する持続可能な社会形成

指標No.6【マイナンバーカード普及率】については、デジタル地域通貨を活用した普及啓発により、目標値達成に向け順調に進捗した。指標No.7【地域ブランド市区町村ランキング(魅力度)】については、観光・スポーツ・文化等の各分野で市の魅力発信の取組が評価されたが、人口減少傾向には歯止めがかからず、魅力度を定住促進施策につなげる取組が課題である。指標No.8【各種防災訓練における参加者数】も、コロナ禍で密集回避の目的で市民参集方法等を変更したため減少傾向が見られるが、対応策として、地域の防災訓練手法の検討や、子ども達が参加しやすい訓練内容に見直すなどして防災訓練への参加促進と防災減災意識向上を図る。

③環境先進都市への挑戦

指標No.9【市全体の二酸化炭素排出量】については、「御殿場市のゼロカーボンシティに向けたロードマップ」を令和5年1月に策定し、2050年までの長期的な目標値(脱炭素シナリオとロードマップ)を定めた。今後、地域と連携しJ-クレジットの活用による脱炭素推進に取り組むなど、官民共通認識のもとで協働して進める。なお、環境教育・啓発活動が進み、指標No.10【ごみ・資源物発生量】・指標No.11【家庭系ごみ・資源物の資源化率】については、順調な進捗がみられ、今後、目標値の見直しを検討する。指標No.12【御殿場市富士山眺望遺産の認定件数】は、新しい道路網等が形成され、新たな眺望の発見も期待されるため、過去の候補も含め市民・事業者等と協議しながら慎重に検討を進めている。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・観光交流客数は、コロナ中で回復が見られ、産業・スポーツ・文化の他分野の取組で関係人口増に繋がったという数字は非常に成果が出てきており、評価できる。
- ・環境に関しては、昔からレインボープランに取り組んでおり、市民の環境への関心がもともと高い事もあり、環境分野での成果はさらに出てくることを期待する。
- ・進捗状況にはばらつきもあるが、目標値の見直しを含めた分析と対応方向の提起が的確であるため、今後の展開に期待もできる。